

研究機関：広島大学

研究課題名	膵管内乳頭粘液性腫瘍 (Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms: IPMN) 併存膵癌診断に対する内視鏡の役割
研究責任者名	広島大学医歯薬保健学研究科 消化器・代謝内科学 教授 茶山 一彰
研究期間	2018年(平成30年)2月15日~2018年(平成30年)3月31日
対象者	2004年1月から2017年10月まで、広島大学病院で手術施行され術後病理にて膵管内乳頭粘液性腫瘍(膵IPMN)と診断された患者さん131名。
意義・目的	膵IPMNは膵癌を併存することが報告されているがその病態についてはまだ未解明な部分が多く適切な診断方法やフォローも確立されていません。今回、IPMN併存膵癌の診断に対する内視鏡検査の有用性を明らかにすることでIPMN併存膵癌に対する適切な検査やフォロー方法を明らかにするためこの研究を計画しました。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は性別、年齢、画像検査(CT, MRI, EUS, ERCP)、術後病理報告書です。 (個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 茶山一彰
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel: 082-257-5192 (内線 2943) 広島大学病院 消化器・代謝内科 クリニカルスタッフ 栗原 啓介